kosei
生かされ、生きるチカラ。

兄をとおして得た「まず人さま」

八王子教会　石川幸代さん

石川さんは、両親と三兄弟で平穏な日々を送っていた。ところが昭和63年頃、兄が統合失調症を発症。妄想や幻覚から怒声をあげて暴れたり、自傷行為に及ぶようになった。恐怖を感じて兄と接するのを避けたい石川さんに対し、母は兄を丸ごと受けとめ、信じ、寄り添い続けていた。ところが、母が肺がんに罹患。闘病中も自分のことをさておいて兄と向き合い続け、平成21年に他界した。令和3年には父も他界。両親という傘がなくなり、兄弟3人だけとなった。兄の状態は一進一退だったが、仏教をともに学ぶ仲間から、兄弟3人での両親へのご供養を勧められ、毎月一回実践してきた。現在兄は徐々に心の安定を取り戻しつつある。石川さんのなかには、母の篤い信仰心が染みこみ「芯」となっている。これからは「まず人さま」の教えのとおり、一人ひとりの幸せを願い、ふれあいを重ねていきたいと思っている。

安心して生きるために

「八月や六日九日十五日」という句があります。非道な原爆投下とその惨禍、そして日本の敗戦を詠みこんだこの句ににじむ戦争に対する悔恨や憂愁、亡くなった方々への鎮魂の思いは、戦後七十八年たってなお強く胸に迫ります。それゆえ、地球に住むすべての人がほんとうの意味で安心して暮らせる世界をと、心の底から願わずにいられません。

本会の開祖・庭野日敬は、「戦争や紛争は、つまり利己心から起こるものであります。差別心から起こるものであります。憎悪と嫉妬から起こるものであります。このような醜い心をおさえるか、あるいは薄れさせるかしないかぎり、人間世界から争いというものが消え去ることはない」と述べて、「宗教によって人間の心を改めることこそが平和への大直道」と明言しています。

私たちのような平凡な人間が、戦争をくい止めるのは現実的には困難なことです。しかし、信仰による心の向上を、社会・国家がよりよい方向に進むよう役立てることはできます。慈悲の心で自他を見ること、その心を押し広げて、さらに地域社会も国も、みな自分と一体の大事な存在であるということを人さまに伝えること。信仰のあるなしにかかわらず、そうして自国はもちろん世界の国ぐにや人びとを愛し、思いやる仲間が多くなることが、だれもが安心して生きられる世界の実現につながるのです。

立正佼成会
〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615
Eメール：info@kosei-kai.or.jp　www.kosei-kai.or.jp